

Do ・ Check				Action				
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成度	達成状況についての説明	学校の現状・実態				
意欲的に学ぶことができる 学習指導 (学力向上・テーマ研究・ICT機器の活用)	児童の学習(関心意欲面)に関するアンケート(満足度)90%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習に関する満足度アンケートは92%,児童全体の学習に対する意欲は高い。</li> <li>・毎学期実施している若手研修の振り返りで、90%以上の肯定的評価を得ている。</li> <li>・職員による自己評価にて、83%がICT聞きの活用に満足している。</li> <li>・今年度3月1日現在で、単元テストの平均正答率70%以下の児童は昨年比4%減に留まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者・地域の教育力が高く、学校に対しても協力的である。</li> <li>○全体的に落ち着いているが、特に配慮を要する児童が年々増えており、個別に対応できるための体制づくりが課題となっている。</li> <li>○学力調査では全ての項目において平均をやや上回っているが、2極化の傾向は依然として続いている。また、学年が上がるにつれて、伸び率が低くなってきている。</li> <li>○いじめや差別等の事案はほとんど無いが、SNS等からの情報により、人を気づけるような言葉や差別用語といった言葉の知識がかなり入っている。</li> </ul>				
	若手教員研修による肯定的評価(自己の高まり)を85%	B						
	職員による自己評価にて「ICT機器の活用」に関する満足度評価80%	B						
	単元テスト(国語・算数)における平均正答率70%以下の児童を昨年比20%減	C						
思いやりあふれる人間関係づくり (人権教育・特別支援教育)	児童による学校生活アンケート、「学級満足度」90%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートの学級満足度は92%であった。</li> <li>・学期末の学校評価で、言葉の使い方の指導について、概ね共通理解共通実践できているとの評価を得ている。</li> <li>・教師自身の人権感覚についての肯定的評価は84%であり、今後の課題でもある。</li> <li>・各学級、特に配慮を要する児童は増加しており、喫緊の課題となっている校内支援委員会については、今年度、コーディネーターを中心に組織的に運営できた。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課 題</th> <th>今後の改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	課 題	今後の改善方策		
	課 題	今後の改善方策						
	「言葉」の使い方指導の共通実践	A						
教師自身の人権感覚における肯定的評価90%	C							
校内支援委員会の定期的な開催と共通理解を図る	A							
心身ともに元気な学校であるための基本的生活習慣の定着 (体力向上・生徒指導)	運動好きの児童を増やす	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はICTを活用した体育科学習の研究を行い、かなりの児童が運動の楽しさを味わうことができた。</li> <li>・生徒指導事案の報告については、未だ徹底できているとは言えず、今後、事後指導のあり方の含め、共通理解を図る必要がある。</li> <li>・不登校傾向の児童については、数名教室への完全復帰ができたが、不登校児童の20%減は達成できていない。</li> <li>・けがによる病院院搬送については、前年比20%減を達成できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの効果的な活用</li> </ul>				
	生徒指導事案報告(事後指導も含む)を即日実施する	C						
	不登校児童を前年度比20%減	C						
	けがによる保健室来室者数を前年度比20%減	A						
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)				<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育及び特に配慮を要する児童への支援</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶については、日頃からよくできており、習慣化されているのを感じる。</li> <li>・ICT活用については、今後も必要不可欠なものとなることは承知しているが、指導者側も日常的にしなければならない事が多く、負担感も多いのではないかと。</li> <li>・施設面で言えば、早急に児童用トイレの改善を希望する。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の主な実践を交流し、情報スキルの向上も含めた研修の場の設定。</li> <li>・早い段階での児童に関する情報交換及び手立てについての共通理解</li> <li>・外部機関等の連携及び保護者への理解</li> </ul>			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・事案に対する指導体制の共通理解を図り、特に学年を単位とした組織的な対応の充実を図る。</li> <li>・未然防止に向けた指導内容の共通理解及び共通実践</li> <li>・迅速、誠実な対応の徹底</li> </ul>			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の未然防止と事後の共通理解</li> </ul>				